

就業構造基本調査を用いた小区別貧困率推定

九州大学 マス・フォア・インダストリ研究所 廣瀬 雅代
統計数理研究所 医療健康データ科学研究センター 岡 檀

1. 研究目的：

近年、わが国でも貧困に関連した社会問題が取り上げられている。そのような状況をより細かく把握するため、地域別のエビデンス資料作成のみならず、その統計的信頼性を向上させることは今後非常に重要になると考えられる。そのような資料作成のために、本研究では、公的マイクロデータを利用して都道府県別及び県内経済圏別貧困率の推定を試みた。

2. 研究方法

具体的研究方法をいくつか述べる。まず、この目的の達成のために、本研究では公的マイクロデータである就業構造基本調査票情報をオンライン施設にて利用した。ところで就業構造基本調査を利用した都道府県別貧困率の推定は、戸室(2016)など他分野において先行研究がある。一方、本研究では、新型コロナウイルス感染拡大前の状況を確認するため、平成29年の調査票情報と複数の推定手法を利用して分析を試みた。1つの推定手法として、逆正弦変換を用いたエリアレベルモデルに基づく小地域推定法(Hirose et al. 2023, 廣瀬・岡 2023)を適用した。その上で従来法との結果の差異まで比較を行った。さらに分析では、地域別だけではなく、さらに性別も考慮に入れている。分析結果は当日報告する予定である。

3. 補足事項

本研究の分析は2019年度日本経済研究センター研究奨励金助成を、メソッドロジー部分は科研費18K12758, 22K01426の助成を受けたものである。そして、今回報告予定の分析結果は、調査票情報を基に利用者が独自に作成・加工したものである。そのため、公表している統計とは異なる。

【参考文献】

- [1] 戸室健作 (2016). 都道府県別の貧困率, ワーキングプア率, 子どもの貧困率, 捕捉率の検討. 山形大学人文学部研究年報, **13**, 33-53.
- [2] Hirose, M.Y., Ghosh, M., & Ghosh, T. (2023). Arc-Sin Transformation for Binomial Sample Proportions in Small Area Estimation, *Statistica Sinica*, **33**, 705-727.
- [3] 廣瀬雅代・岡檀 (2023). エリアレベルモデルに基づく都道府県別貧困率の推定とマッピング, 2023年度統計関連学会連合大会講演報告集.